

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年9月6日（月）～令和3年9月12日（日）〔令和3年第36週〕の感染症発生状況

第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) ヘルパンギーナでした。

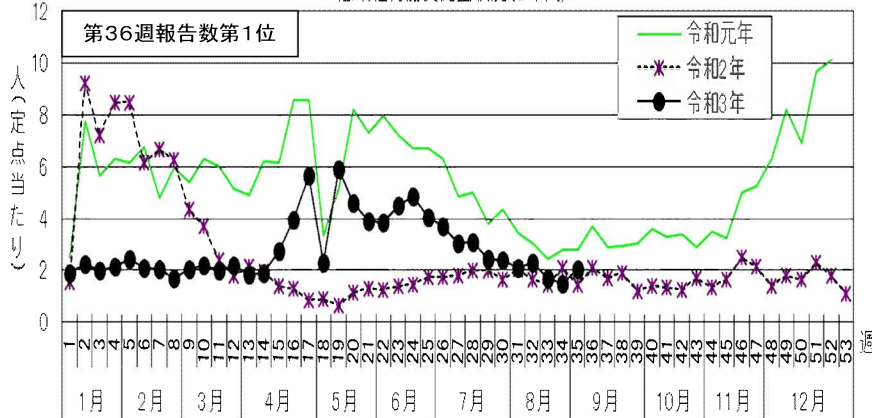
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.05人と前週（1.51人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.22人）から増加しましたが、例年並みのレベルで推移しています。

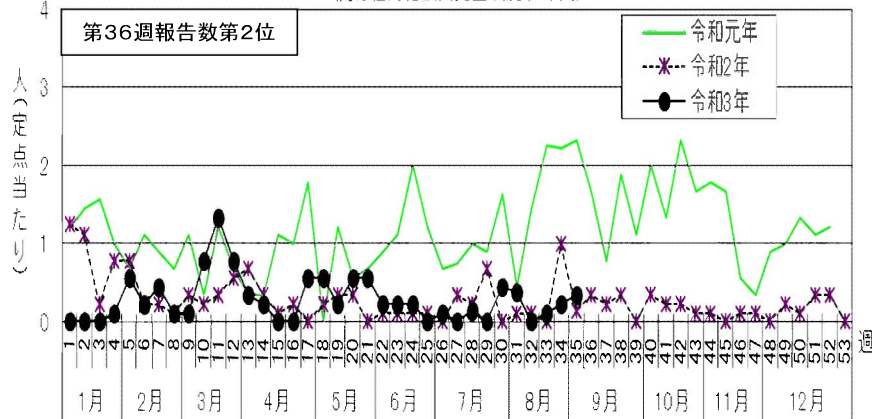
ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.27人と前週（0.19人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



流行性角結膜炎発生状況(3年間)



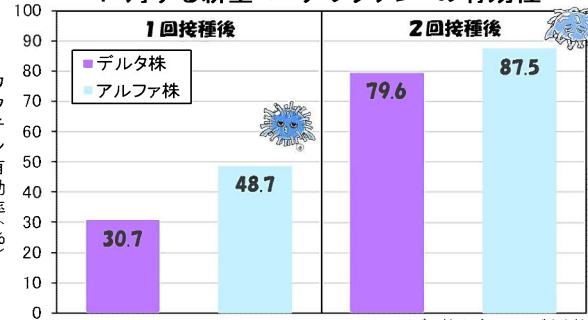
新型コロナウイルス感染症～ワクチンの有効性・副反応～

我が国では、令和3年2月中旬から新型コロナワクチンの接種が開始されました。新型コロナワクチンは、2回目の接種完了から2週間程度で十分な免疫が得られるといわれており、国内で使用されているワクチンを用いた調査では、現在流行中のデルタ株に対しても2回接種後のワクチン有効率は79.6%と、感染リスクを大きく減らすことが報告されています。

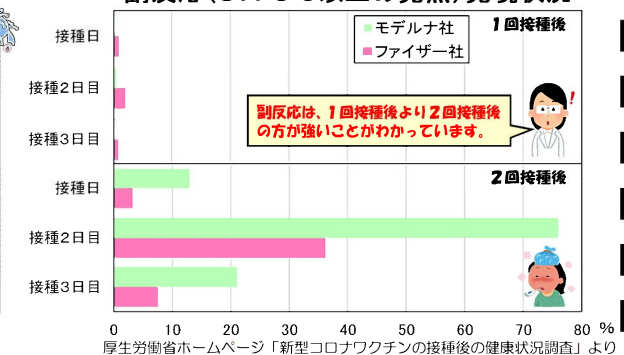
しかし、接種後に、倦怠感や接種部位の痛み、頭痛、発熱などの副反応がみられることが多く、特に2回目接種後はより反応が強いことがわかっています。これらの症状が現れるのは接種翌日が最も多く、3日目以降は徐々に軽減することがほとんどです。

ワクチンの特性を正しく知った上で、接種を検討しましょう。

新型コロナウイルスのアルファ株及びデルタ株に対する新型コロナワクチン*の有効性



新型コロナワクチン1回及び2回接種後の副反応(37.5℃以上の発熱)発現状況



「Effectiveness of Covid-19 Vaccines against the B.1.617.2 (Delta Variant)」より

厚生労働省ホームページ「新型コロナワクチンの接種後の健康状況調査」より